

第3回大阪府学校教育審議会支援教育部会

日 時 令和7年10月10日（金）15：00～

会 場 大阪府庁別館6階委員会議室

次 第

1 開 会

2 審 議

3 閉 会

配付資料

- ・ 次第
- ・ 大阪府学校教育審議会支援教育部会委員名簿
- ・ 配席図
- ・ 資料

第3回大阪府学校教育審議会支援教育部会資料

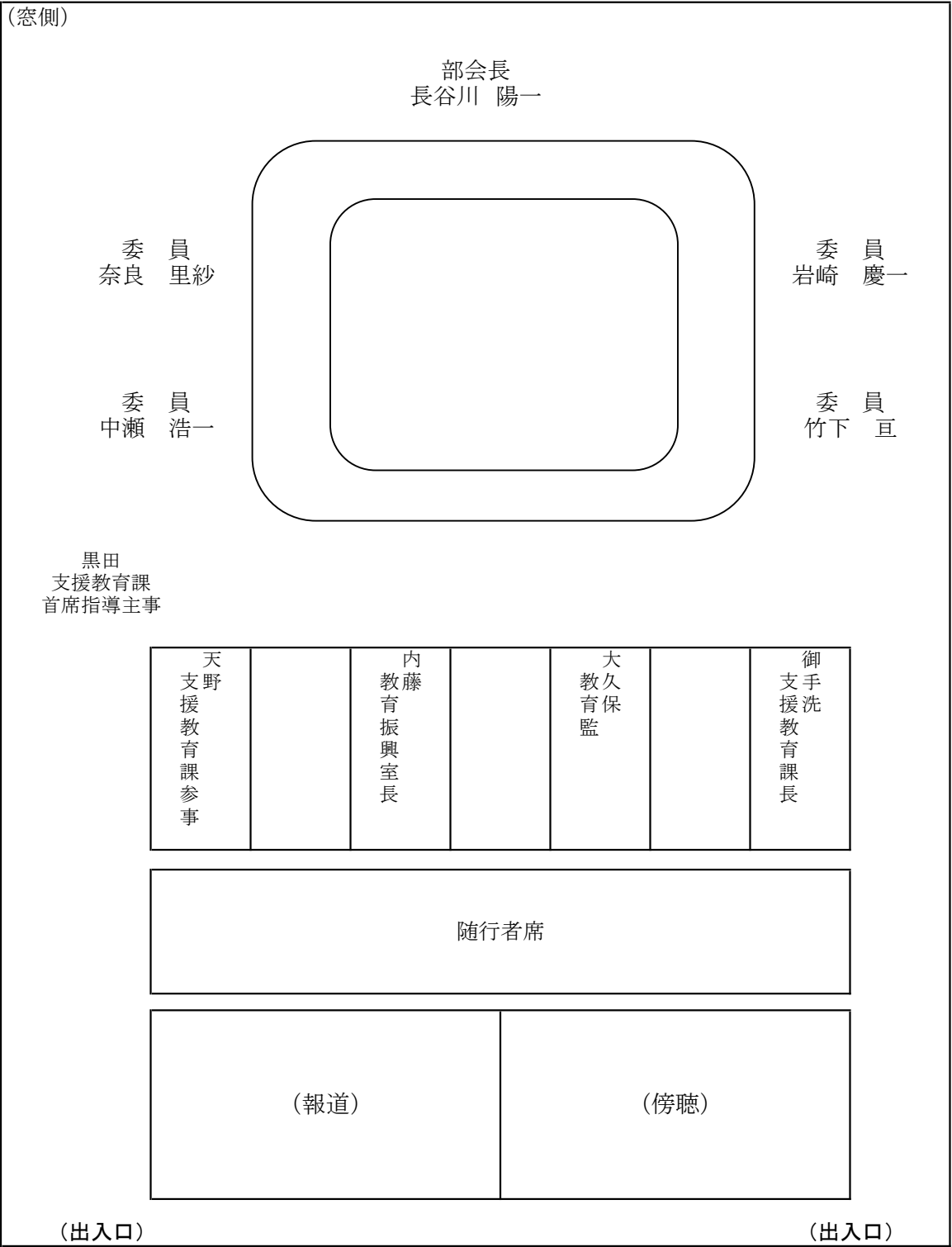
**大阪府学校教育審議会
支援教育部会 委員名簿**

(五十音順)

氏名	職名
岩崎 慶一	株式会社 かねでんエルハート ビジネスアシストセンター ソリューショングループ長
竹下 亘	社会福祉法人 日本ライトハウス常務理事
中瀬 浩一	同志社大学 免許資格課程センター 教授
奈良 里紗	大阪教育大学 総合教育系 准教授
長谷川 陽一	桃山学院大学 特任教授

第3回学校教育審議会支援教育部会 配席図

令和7年10月10日(金曜日)
委員会議室(府庁別館6階)



第3回大阪府学校教育審議会 支援教育部会 資料

～今後における府立視覚支援学校、聴覚支援学校のあり方について～

「今後の府立視覚支援学校、聴覚支援学校におけるキャリア発達を促す教育の充実について」

① 早期の職業体験機会を創出し、将来の多様なキャリア形成の礎となる教育課程の検討

(参考) 他府県の状況について (千葉県立千葉盲学校／愛知県立名古屋聾学校)
卒業生および就労先企業からのヒアリング

② 海外の学校等との国際交流を進め、グローバルな視点でのキャリア教育

③ 産業構造の変化に対応した実践的な技術や職業スキルの修得

(参考) 令和7年9月19日 文部科学省 中央教育審議会 教育課程企画特別部会 論点整理 (案)
経済産業政策新機軸部会第4次中間整理 参考資料集～ 成長投資が導く2040年の産業構造～

今後の府立視覚支援学校、聴覚支援学校におけるキャリア発達を促す教育の充実について

①早期の職業体験機会を創出し、将来の多様なキャリア形成の礎となる教育課程の検討

現状	検討のポイント
◆ 各校のキャリア教育 ◆ 高等部の学科 ◆ 中学部・高等部卒業後の進路 ◆ 専攻科の在籍状況等	□ 今後充実していくべき教育内容

②海外の学校等との国際交流を進め、グローバルな視点でのキャリア教育

現状	検討のポイント
◆ 外国語活動、外国語科について ◆ 各校の国際交流の取り組み ◆ 姉妹校交流支援事業について	□ 卒業後、グローバルな視野で活躍するための資質・能力の育成

③産業構造の変化に対応した実践的な技術や職業スキルの修得

現状	検討のポイント
◆ 卒業後の進路状況	□ 今後求められる技術や職業スキル □ 必要な施設設備内容

①早期の職業体験機会を創出し、将来の多様なキャリア形成の礎となる教育課程の検討

視覚支援学校・聴覚支援学校のキャリア教育について

【平成 29 年・30 年告示の特別支援学校学習指導要領におけるキャリア教育】

(小学部・中学部)第1章総則 第5節 児童又は生徒の調和的な発達の支援

(3) 児童又は生徒が、学ぶことと自己の将来とのつながりを見通しながら、**社会的・職業的自立に向けて必要な基盤となる資質・能力を身に付けていく**ことができるよう、特別活動を要として各教科等の特質に応じて、キャリア教育の充実を図ること。その中で、中学部においては、生徒が自らの生き方を考え主体的に進路を選択することができるよう、学校の教育活動全体を通じ、組織的かつ計画的な進路指導を行うこと

(高等部)第1章 総則 第2節 教育課程の編成 第5款 生徒の調和的な発達の支援
1 生徒の調和的な発達を支える指導の充実

(3) 生徒が、学ぶことと自己の将来とのつながりを見通しながら、**社会的・職業的自立に向けて必要な基盤となる資質・能力を身に付けていく**ことができるよう、特別活動を要として各教科・科目等又は各教科等の特質に応じて、キャリア教育の充実を図ること。その中で、生徒が自己の在り方生き方を考え主体的に進路を選択することができるよう、学校の教育活動全体を通じ、組織的かつ計画的な進路指導を行うこと。その際、家庭及び地域や福祉、労働等の業務を行う関係機関との連携を十分に図ること。

①早期の職業体験機会を創出し、将来の多様なキャリア形成の礎となる教育課程の検討

【視覚支援学校での取り組みの一例】

小学部	中学部	高等部
● 自分の見えにくさについて知り、支援機器の良さを知る。 ● 様々な仕事を知り、多くの役割や関係性を知る。 ● 先輩へのインタビューを通じて、将来のロールモデルイメージづくりにつなげる。 ● 学校周辺当での白杖歩行。	● 自分の障がいの状態を理解し、生活上の困難を改善、克服しようとする力を身に付ける。 ● 職場体験等を通して勤労の意義等を理解する。 ● 将来の夢や職業を思い描き、なりたい仕事を考える。 ● 目的地までの移動に必要な情報を自身で集め、移動する。	● 自分の障がいの状況を他者に説明し、必要な支援を自分から得られるようになる。 ● 職業に就く手続き、方法などを知る。 ● ライフステージに応じた個人的・社会的役割や責任を理解する。 ● 白杖歩行で自由に臨機応変な対応ができる移動能力を持つ。

【聴覚支援学校での取り組みの一例】

小学部	中学部	高等部
● 自分のきこえの特徴を知り、代替手段(UDトークなど)があることを知る。 ● 様々な仕事を知り、働く人に興味を持つ。 ● 行事等で先輩の取り組みを見て、自分の将来像を描く。 ● 場面に応じた言葉を学び、文章力を高める。	● 自分の障がいを他者に正しく伝える。 ● 職場体験などを通じて職業観を学ぶ。 ● 卒業生の講話を実施し、将来のロールモデルイメージを持つ。 ● 正しい日本語や敬語表現を身に付け、コミュニケーション力を高める。	● 自分の障がいを他者に正しく伝え、情報保障とともに構築していく。 ● 職場実習を通して、働く喜びと意義を知る。 ● 消費生活の安定と向上を考え、生活設計を立てる。 ● 言葉がもつ曖昧性や、意味の深さを知る。

①早期の職業体験機会を創出し、将来の多様なキャリア形成の礎となる教育課程の検討

各校の高等部の学科について

学校名		高等部・本科	高等部・専攻科	学科特徴
視 覚	大阪北視覚	【普通科】 【保健理療科(※)】 (※令和4年度から募集停止)	【理療科】 【保健理療科】	国家試験受験資格を 取得するための教育課程 ○理療科 あん摩マッサージ指圧師、 はり師、きゅう師を養成 ○保健理療科 あん摩マッサージ指圧師を養成
	大阪南視覚	【普通科】	【理療科】 【保健理療科】 【理学療法科】 【柔道整復科】	
聴 覚	中央聴覚	【普通科】 【インテリア科】 【アパレル情報科】	【デザイン情報科】 └情報処理コース └インテリアコース └アパレル情報コース	高等部・本科での専門教科の 学びを専攻科で継続・発展で きるよう学科を設置
	だいせん 聴覚高等	【普通科】 【工業テクノロジー科】 【情報コミュニケーション科】 【ライフサポート科】	【工業テクノロジー科】 【情報コミュニケーション科】 【ライフサポート科】	

①早期の職業体験機会を創出し、将来の多様なキャリア形成の礎となる教育課程の検討

視覚支援学校 中学部卒業生の進路状況

➤ 中学部卒業生の進路は、過去10年間 全員が支援学校高等部への進学

【大阪】

(人)

卒業年度	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6
高等学校等	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
支援学校高等部	9	8	7	9	8	7	6	6	15	11

(参考:全国)

(人)

卒業年度	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6
高等学校等	6	4	6	7	11	3	6	3	11	-
支援学校高等部	145	158	168	159	183	160	130	126	145	-

①早期の職業体験機会を創出し、将来の多様なキャリア形成の礎となる教育課程の検討

聴覚支援学校 中学部卒業生の進路状況

➤ 中学部卒業生の進路は、支援学校高等部が多いが高等学校等への進学も一定数あり

【大阪】

(人)

卒業年度	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6
高等学校等	3	3	9	2	9	6	10	6	6	5
支援学校高等部	24	22	30	29	18	17	13	19	23	20

(参考:全国)

(人)

卒業年度	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6
高等学校等	17	28	26	22	44	29	42	46	58	-
支援学校高等部	386	401	374	372	369	325	298	296	294	-

①早期の職業体験機会を創出し、将来の多様なキャリア形成の礎となる教育課程の検討

視覚支援学校 高等部 本科卒業生の進路状況

➤ 卒業生の就職者は1名以下 専攻科への進学が減少している

【大阪】

(人)

卒業年度	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6
大学等※	3	2	1	1	1	1	3	0	2	3
支援学校専攻科	5	3	1	2	2	1	1	0	1	2
就職	0	1	1	0	0	0	0	1	0	0
福祉施設ほか	9	13	11	8	9	5	10	8	5	3

※専修学校、各種学校、公共職業能力開発施設等含む

(参考:全国)

(人)

卒業年度	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6
大学等※	49	45	53	54	58	55	59	51	51	-
支援学校専攻科	58	57	47	47	31	57	37	28	34	-
就職	58	32	47	36	16	23	26	30	30	-
福祉施設ほか	209	143	143	132	112	151	110	133	104	-

※専修学校、各種学校、公共職業能力開発施設等含む

①早期の職業体験機会を創出し、将来の多様なキャリア形成の礎となる教育課程の検討

聴覚支援学校 高等部 本科卒業生の進路状況

➤ 年度によって違いはあるが、特定の進路先に偏ることはない

【大阪】

(人)

卒業年度	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6
大学等※	7	9	10	5	8	6	9	5	2	6
支援学校専攻科	11	9	7	10	11	13	10	8	9	6
就職	13	9	7	8	4	11	3	3	1	2
福祉施設ほか	9	4	6	6	3	5	7	3	3	2

※専修学校、各種学校、公共職業能力開発施設等含む

(参考:全国)

(人)

卒業年度	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6
大学等※	150	113	129	104	123	123	137	147	120	-
支援学校専攻科	77	69	84	53	61	80	65	45	64	-
就職	210	195	192	212	183	141	132	135	118	-
福祉施設ほか	91	74	87	64	103	96	108	83	73	-

※専修学校、各種学校、公共職業能力開発施設等含む

①早期の職業体験機会を創出し、将来の多様なキャリア形成の礎となる教育課程の検討

視覚支援学校 専攻科 在籍状況

➤ 視覚支援学校 専攻科の在籍者数は、令和6年度は、平成27年度と比べ概ね半減。

【大阪】

(学校基本調査より)

平成 27 年度	学科	人数
	理療科	40
	保健理療科	23
	理学療法科	12
	柔道整復科	6
	計	81



令和 6 年度	学科	人数
	理療科	19 (↘53%減)
	保健理療科	11 (↘52%減)
	理学療法科	7 (↘42%減)
	柔道整復科	10 (↗67%増)
	計	47 (↘42%減)

(参考:全国)

平成 27 年度	学科	人数
	理療科	590
	保健理療科	263
	理学療法科	43
	その他	34
	計	930

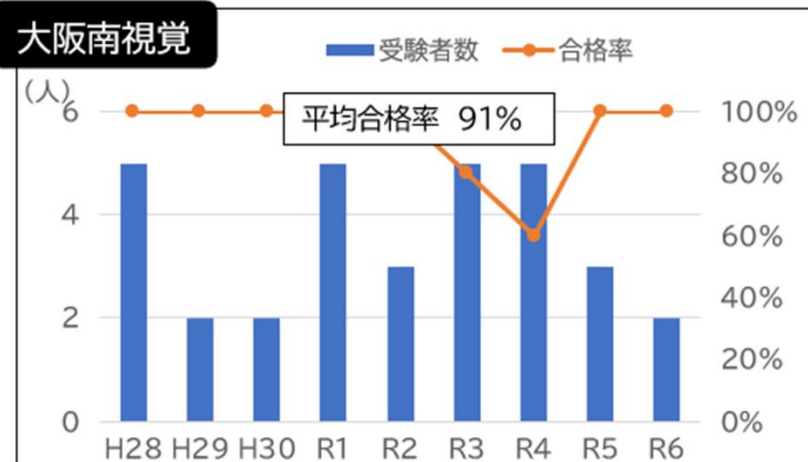
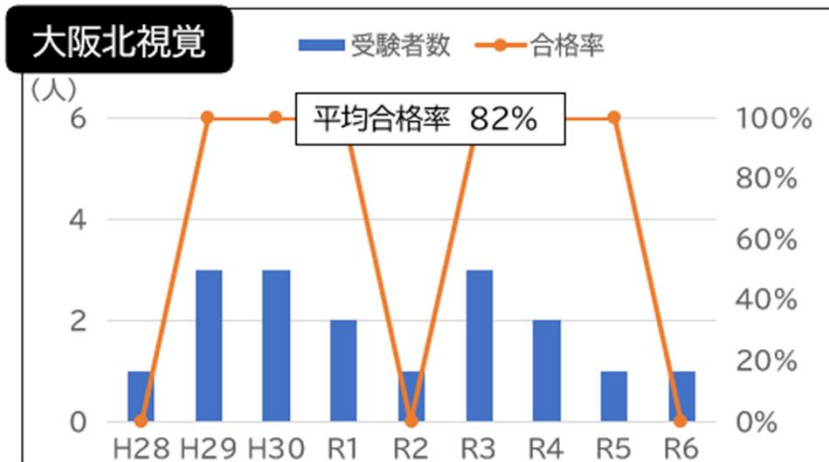


令和 6 年度	学科	人数
	理療科	301 (↘49%減)
	保健理療科	135 (↘49%減)
	理学療法科	24 (↘44%減)
	その他	26 (↘24%減)
	計	486 (↘48%減)

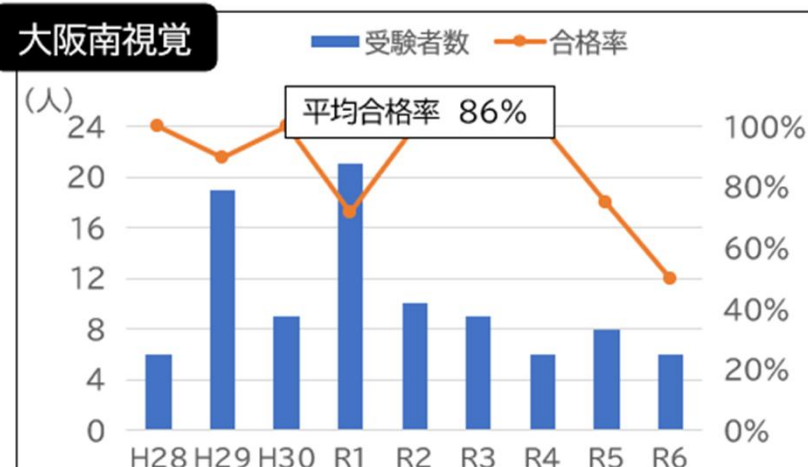
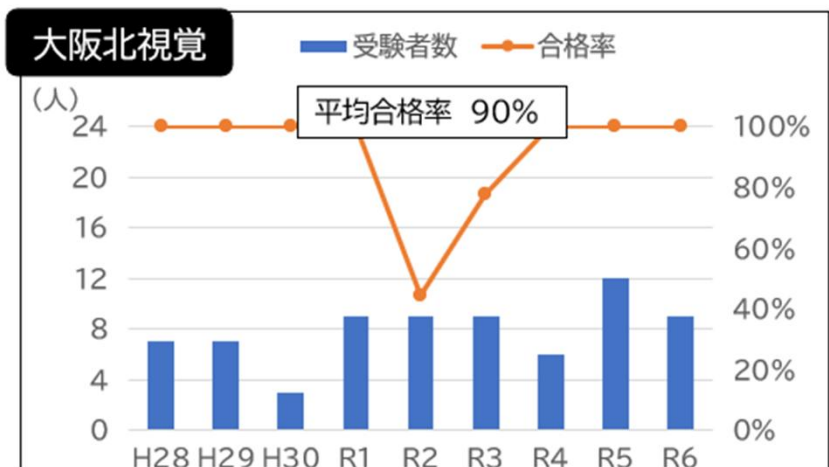
①早期の職業体験機会を創出し、将来の多様なキャリア形成の礎となる教育課程の検討

視覚支援学校専攻科における、あはき資格の取得状況(再掲)

保健理療科:あんまマッサージ指圧師



理療科:あんまマッサージ指圧師・はり師・きゅう師



- 資格取得の合格率は高い値で推移し、資格取得者はほぼ就労につながっている
- 当事者からは、視覚障がい者の職業拡大・開拓を積極的に進めて欲しいという声もある

①早期の職業体験機会を創出し、将来の多様なキャリア形成の礎となる教育課程の検討

聴覚支援学校 専攻科 在籍状況

▶ 聴覚支援学校 専攻科の在籍者数は、令和6年度は、平成27年度と比べ約3割減。

【大阪】

(学校基本調査より)

平成 27 年度	学科		人数
	だい い せん	工業テクノロジー	5
		情報コミュニケーション	10
		ライフサポート	7
	中央	デザイン情報	4
計			26



令和 6 年度	学科		人数
	だい い せん	工業テクノロジー	4 (↘20%減)
		情報コミュニケーション	7 (↘30%減)
		ライフサポート	4 (↘43%減)
	中央	デザイン情報	4 (—)
計			19 (↘27%減)

(参考:全国)

平成 27 年度	学科	人数
	工業系	32
	印刷系	14
	家政系	8
	理美容系	17
	歯科技工	13
	情報ほか	50
計		134



令和 6 年度	学科	人数
	工業系	18 (↘44%減)
	印刷系	12 (↘14%減)
	家政系	4 (↘50%減)
	理美容系	6 (↘65%減)
	歯科技工	2 (↘85%減)
	情報ほか	43 (↘14%減)
計		85 (↘37%減)

(参考)他府県の状況について<千葉県立千葉盲学校>

千葉県立千葉盲学校

【各学部の幼児児童生徒数(R7年度)】

学部		在籍数(人)
幼稚部		11
小学部		5
中学部		7
高等部 本科	普通科	4
	総合生活科	3
	保健理療科	2
高等部 専攻科	理療科	7
	保健理療科	6
計		45



【高等部 本科 総合生活科について】

● 学科の目標

体験的学習等を充実させた職業教育を行い、
職業自立ができる力を育成する。

● 総合生活科の概要

- ① 高等学校実業科の教育課程に準じた教育課程です。職場等での実習を取り入れています。専門科目としては家庭情報処理、視覚障害福祉、生活技術、消費生活、生産学習、ビジネス基礎、産業社会と人間があります。
- ② 卒業後に企業への就職を希望する生徒に適しています。

(千葉県立千葉盲学校 ホームページより)

(参考)他府県の状況について<愛知県立 名古屋聾学校>

愛知県立 名古屋聾学校

【高等部の設置学科と在籍者数(R6年度)】

(人)

中学部	高等部 本科				高等部 専攻科			
	普通科 (重複)	生活 デザイン科	インテリア科	機械制御科	生活 デザイン科	インテリア科	機械制御科	情報 ビジネス科
23	23 (9)	9	16	6	2	5	2	5

【連携教育】

- ◆ 昭和48年から聾学校の機械制御科と愛知総合工科高等学校の機械制御科と実施
- ◆ 機械制御科の本科2・3年生は週2回(水・木)、専攻科は週3日(月・水・木)愛知総合工科高等学校で学習
↳ 愛知総合工科にて実習等の授業を実施。



愛総校内に教室を設置



愛総校の旋盤機械を使用



愛総校の溶接関連機械を使用



愛総校の体育祭に参加

授業の様子(名古屋聾学校note:<https://nagoyaro-shs.note.jp/> より)

(参考)他府県の状況について<愛知県立 名古屋聾学校>

【各種連携先及び連携内容】

学校系	
愛知県立愛知総合工科高等学校	【機械制御科】連携教育
東邦高等学校	【高等部本科1年生】授業交流(11月)
愛知県立古知野高等学校	【生活デザイン科】授業交流(6月・文化祭)
名古屋市立工芸高等学校	【インテリア科】技能競技大会の合同練習
名古屋市立名古屋商業高等学校	【情報ビジネス科】と商業フェアの連携
名城大学	【全科】経済学部(SDGsの共同学習) 愛知大学野球連盟 女子駅伝部(陸上部との合同練習)

企業系	
スターバックスコーヒージャパン	地域清掃活動の連携
名古屋丸の内ロータリークラブ	【音楽部】イベント参加
トヨタ紡織株式会社	【インテリア科、生活デザイン科】ノベルティグッズの製作
中日新聞社	【インテリア科、生活デザイン科】中日ドラゴンズ選手との交流等
東海テレビ	【インテリア科、生活デザイン科】多文化交流プログラム参加、協力、専攻科セミナー研修
日本ウエディングプランナーネットワーク	【生活デザイン科】外部講師派遣(ウエディングプランナー関連) ホテルサービス、フラワーアレンジメント、映像製制作、ヘアメイク、ドレスデザイン

(参考)卒業生および就労先企業からのヒアリング＜視覚支援学校＞

視覚支援学校専攻科卒業生 2 名から聞き取り

◆学校で学んだ知識やスキル等で職務に役立っていること

- ・同級生同士の施術練習で相互に学びあい、成長する過程を実感
- ・生徒会活動で自ら発信する力を身に付けた
- ・人体標本の解剖見学で実践的な学びを体験

◆学校で身に付けておけばよかったと思うこと

- ・人と関わる事が多く、コミュニケーション力、協調性
- ・ビジネスマナーや電話対応、あいさつなど

◆在学時代に印象に残ったこと

- ・文化祭や敬老の日等の行事で施術を実践
- ・先生たちの生徒一人ひとりへの向き合い方、自立させようという熱意

◆今後挑戦していきたいと考えていることなど

- ・将来は自身で治療院を開業したい(支援学校卒業生の受け皿を増やしたい)
- ・就労してくる後輩に技術を伝え、育てたい

企業 2 社の人材育成担当者から聞き取り

(企業 2 社：就労支援A型事業所、特例子会社)

◆新入社員に求める資質や能力について

- ・他者(他の障がいのある方含む)と協力して業務にあたる力

◆卒業生が入社時に備えていた知識やスキル等の中で、特に役立っているもの

- ・三療にかかる国家資格
- ・自力通勤できる力

◆学生時代に取り組んで欲しいこと

- ・目標に向かって努力する経験
(勉学や部活動に限らずなんでも)
- ・様々な経験
(広い視野を持てるようになる)

◆学校と連携して取り組めるプログラムや活動

- ・社内イベント(マッサージグランプリ)への招待、参加

(参考)卒業生および就労先企業からのヒアリング＜聴覚支援学校＞

聴覚支援学校高等部卒業生 2 名から聞き取り

◆学校で学んだ知識やスキル等で職務に役立っていること

- ・専攻科で学んだPC関係のスキル
- ・校内で資格試験が受験可能な環境
- ・分からないとき、困ったときに助けを求めることができる力

◆学校で身に付けておけばよかったと思うこと

- ・ビジネスマナーに関する知識(特に名刺の渡し方や座るべき席順、敬語の使い方など)
- ・TPOにあわせた身だしなみ

◆在学時代に印象に残ったこと

- ・部活動で聾学校の近畿大会に出場・優勝

◆今後挑戦していきたいと考えていることなど

- ・就労してくる後輩たちのサポート
- ・現在の所属でグループ長になりたい
- ・11月に行われる東京2025デフリンピックでのメダル獲得
- ・学校の部活動の活性化とスポーツの普及活動

企業 2 社の人材育成担当者から聞き取り

(企業 2 社：特例子会社)

◆新入社員に求める資質や能力について

- ・国語力(筆談等で伝えられた内容を理解する文章理解力)
- ・メモをとることなど基本的なビジネスマナー
- ・8時間働くことのできる体力
- ・指示されたこと、指摘されたことを素直に受け入れる態度

◆卒業生が入社時に備えていた知識やスキル等の中で、特に役立っているもの

- ・PCのスキル(基本的なオフィスソフトの操作に加えて、例えば研修のアンケートなども自動化して、効率よく集約できるような力)

◆学生時代に取り組んで欲しいこと

- ・部活動など(人間関係力を培ってほしい、企業ではチームで働くので、まず隣の席の人とうまくやるのが大事)

◆学校と連携して取り組めるプログラムや活動

- ・中学部からの体験実習の受け入れ
- ・アルバイトを含むより実践的な職業体験

②海外の学校等との国際交流を進め、グローバルな視点でのキャリア教育

視覚支援学校・聴覚支援学校での外国語活動・外国語科

- 障がいの状態等を考慮し、指導方法を工夫して小学校・中学校・高等学校に準ずる外国語活動・

外国語科の学習

〔ただし、知的障がいを併せ有する児童生徒に対しては障がいの状態等に応じた内容での実施〕

外国語活動及び外国語科充実のための事業

指導充実のため外国人講師を各校のニーズに応じて派遣

〈内容〉

- ① 外国語活動および外国語科の授業における指導
- ② 国際理解教育の推進のための児童生徒への講座講師
- ③ 教員に対する指導・助言等

※小中高と3学部設置する視覚支援学校、聴覚支援学校では年平均20～30回程度派遣

②海外の学校等との国際交流を進め、グローバルな視点でのキャリア教育

各校の国際交流におけるこれまでの取り組み

	学校名	実施年度	交流相手	内容
視 覚	大阪北視覚	令和7年度	韓国 忠州聖母学院 (視覚支援学校)	高校生が修学旅行で来阪した際に生徒同士の交流を実施。
	大阪南視覚	令和2年度	国立パリ盲学校	ビデオレターでの交流。 相互の学校紹介、質問、クイズや歌などを録画して送付。
聴 覚	中央聴覚	令和6年	パキスタン	パキスタンの聴覚障害者連盟の青年部長が来校し、学校見学後、生徒と国際手話や文化の違いについて交流を実施。
	生野聴覚	令和6年	インドネシア	ろうあ会館の外国人研修生との交流。クイズや研修生による母国についての講演などを聞く。
	堺聴覚	令和6年	ガーナ国立 サベルグろう学校	ガーナの中学生とオンラインでの交流を実施。自己紹介やお互いへの質問、手話歌の相互発表。
	だいせん 聴覚高等	平成26～28	タイの姉妹校	タイへ3泊5日のスタディツアーを実施し生徒が参加。マヒドール大学の生徒たちにASLを使って日本の文化を紹介した。

②海外の学校等との国際交流を進め、グローバルな視点でのキャリア教育

海外短期留学支援事業について

全ての府立高校が海外の学校と姉妹校提携を締結し、相互の学校訪問による異なる文化・生活習慣を持つ同年代の若者との交流活動を通して、実践的な英語力を向上させるとともに、臆せず、積極的に英語でコミュニケーションを図ろうとするマインドを備え、国内外で活躍する人材を育成する。

Step 1

英語を話す力の育成

姉妹校との交流に必要な英語を話す力の基礎を身に付けられるよう、AIを搭載した英語学習ツール「BASE in OSAKA」を活用。

⇒「BASE in OSAKA」の導入

Step 2

姉妹校提携の締結

令和7年度から順次、全ての府立高校等において海外の学校と姉妹校提携を締結。

⇒「大阪府立学校海外交流支援センター」の設置

Step 3

姉妹校との交流

生徒が姉妹校を訪問し、海外の高校生と英語でのコミュニケーションをとる交流を実施。

⇒「大阪府姉妹校交流支援金」の交付

【支援学校における取組み】

以下の支援学校においては、上記の府立高校のねらいに加え、今後社会的自立を果たす際に重要となる、他者への思いやりや協調する態度を育成。

〈実施校〉

知的	たまがわ高等支援・とりかい高等支援・むらの高等支援すながわ高等支援・なにわ高等支援
視覚	大阪南視覚・大阪北視覚
聴覚	だいせん聴覚・中央聴覚

〈R7年度 姉妹校締結予定校〉

南視覚支援学校 中央聴覚支援学校 すながわ高等支援学校

③産業構造の変化に対応した実践的な技術や職業スキルの修得

現状・卒業後の進路状況（再掲）

- 視覚支援学校では従来の「あん摩マッサージ指圧師・はり師・きゅう師」に加え、**より幅広い職業分野での活躍**できるよう
聴覚支援学校においても産業構造の変化に対応し、**実践的な技術や職業スキル**を身に付けるよう
今後の視覚障がい、聴覚障がいのある児童生徒等の**キャリア発達を促す教育の充実**が求められている。

視覚支援学校

(人)

進路先		H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5
高等部 本科	専攻科	3	1	2	2	1	1	-	1
	大学等	2	1	1	1	-	3	-	2
	訓練校等	-	-	-	-	1	-	-	-
	就職	1	1	-	-	-	-	1	-
	福祉施設等	13	11	8	9	5	10	8	5
専攻科	専攻科※	2	-	-	-	2	1	2	-
	大学等	-	-	1	2	-	-	-	-
	訓練校等	-	-	-	-	-	-	-	-
	就職	17	11	17	10	11	14	9	10
	福祉施設等	2	6	14	8	4	8	3	3

※他の学科への入学(例:理療科→柔道整復科など)

(上表の「就職」の内訳)

(人)

職種/卒業年度	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5
あんまマッサージ指圧師・ はり師・きゅう師	18	12	17	10	10	12	9	9
サービス業	-	-	-	-	1	-	1	-
事務	-	-	-	-	-	-	-	1
その他	-	-	-	-	-	2	-	-

聴覚支援学校

(人)

進路先		H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5
高等部 本科	専攻科	9	7	10	11	13	10	8	9
	大学等	7	10	5	8	5	8	3	2
	訓練校等	2	-	-	-	1	1	2	-
	就職	9	7	8	4	11	3	3	1
	福祉施設等	4	6	6	3	5	7	3	3
専攻科	大学等	1	-	-	1	-	-	1	-
	訓練校等	2	-	-	-	1	-	-	-
	就職	10	14	7	5	10	10	13	9
	福祉施設等	1	-	-	-	1	-	-	2

(上表の「就職」の内訳)

(人)

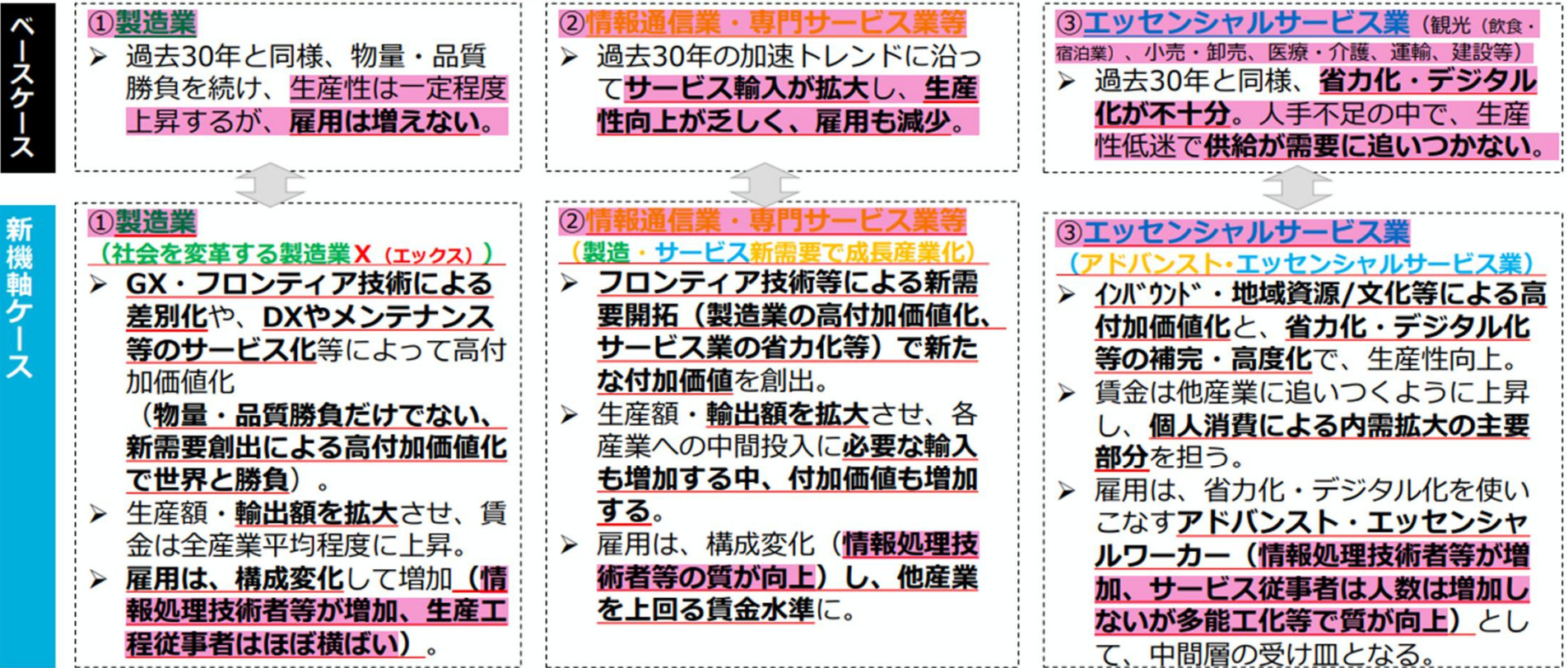
職種/卒業年度	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5
生産・製造業	12	11	6	3	6	9	7	8
事務	6	9	4	5	7	2	8	2
運搬・清掃等	-	-	1	-	5	-	-	-
その他	1	1	4	1	3	2	1	-

③産業構造の変化に対応した実践的な技術や職業スキルの修得

[出典]「経済産業政策新機軸部会第4次中間整理 参考資料集～ 成長投資が導く2040年の産業構造～」より
(2025年6月 経済産業省 産業構造審議会経済産業政策新機軸部会)

「2040年に向けたシナリオ」の定量化 産業構造・投資・輸出入

- 産業構造は、ベースケースでは、変化がないことによって、問題が生じる。
新機軸ケースでは、3つの変化に対応することが必要。



- 民間の国内投資は、次世代投資 (研究開発、ソフトウェア・省力化投資) が拡大していく。
- 財・サービス輸出入は、鉱業 (資源エネルギー等) と製造業に加え、情報通信・専門サービス業が拡大していく。⁷⁰

③産業構造の変化に対応した実践的な技術や職業スキルの修得

[出典]令和7年9月19日 文部科学省 中央教育審議会 教育課程企画特別部会 論点整理(案)より

補足イメージ7-④

専門高校の教育課程の見直し

現 行

学習指導要領の趣旨を踏まえた特色ある取組の展開

一方で、以下のような課題も

- 卒業年次に「課題研究」等が位置付けられているとともに、選択履修科目の内容が〔指導項目〕を中心として構成されていることと相まって、
 - 探究的・実践的な学びの積み重ねが不十分
 - 職業人として身に付けるべき資質・能力を踏まえた授業展開が不十分
- 実践的・専門的な指導の充実のため、産業界等と連携した取組が進められているが、単発的で持続可能な連携になっていないなど、取組のバラツキ
- 専門教科全体として、データサイエンス・AIに関連する教育内容の充実

産業界等

- 市場環境や業態変化に柔軟に応えられる産業人材の育成
- 構造的な人材不足。DX化を牽引する即戦力人材が必要

改善イメージ

資質・能力を意識した探究的・実践的な学びの充実

- 履修構造の見直し・柔軟化、指導事項の資質・能力ベースでの整理・明確化
- 産業界等との持続的な連携に基づく実践的な学びの充実
- 学習指導要領の構造化・分かりやすさ、使いやすさの観点から整理・明確化

- ✓ 探究的・実践的な学びの積み重ねによる深まりのイメージや資質・能力を意識した主体的・対話的で深い学びの一層の実現
- ✓ 学習指導要領の構造化等によるカリキュラム・マネジメントの充実と、産業界等との連携の深化

産業界等の実態に即した学びの充実

- 産業教育に共通する資質・能力の整理・明確化
- データサイエンス・AIを活用した実践的な学びの充実

- ✓ 産業構造や市場環境の急激な変化、労働市場の流動性の高まりに対応した専門教科指導の実現

③産業構造の変化に対応した実践的な技術や職業スキルの修得

全国の視覚支援学校・聴覚支援学校の職業に関する学科(本科・専攻科)

視覚支援学校	理療科	保健理療科	理学療法科	その他(柔道整復科等)	
聴覚支援学校	機械科	産業工芸科	デザイン科	印刷科	家政科
	被服科	理容科	美容科	クリーニング科	
	美術科	材料技術科	その他(情報科等)		

(令和6年度 学校基本調査より 在籍がある学科のみ記載)